様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22　年　6　月　18　日現在

研究種目：若手スタートアップ
研究期間：2008～2009
課題番号：20820060
研究課題名（和文）西蔵出土梵文写本研究、ゲッティンゲンコレクションの網羅的解明

研究課題名（英文）A Study of the Göttingen Collection of Sanskrit Manuscripts from Tibet

研究代表者
加納　和雄（KANO KAZUO）
高野山大学・文学部・助教
研究者番号：00509523

研究成果の概要（和文）：チベットに伝存する、インド大乗仏教の梵文写本コレクションは、その質と量において他地域に所蔵される写本コレクションの追随を許さない、第一級の資料であり、我々はその一部を、ゲッティンゲンに所蔵される写真版、すなわちゲッティンゲンコレクションを通じて目にすることができる。本研究では、同コレクションの目録の不備を補い、未解読の写本を同定および校訂・翻訳し、さらに奥書を網羅することによって諸写本の筆写年代・地域を確定して由来を明かした。

研究成果の概要（英文）：The Sanskrit Manuscript collection preserved in Tibet is one of the best in its quantity and quality among other collections preserved elsewhere. Currently, we can utilize some of the manuscript through the photographic copies preserved at Göttingen (NSUB) and overview the collection through the catalogue composed by F. Bandurski. As a result of the present research project, we could correct a number of errors contained in the catalogue (misidentifications of manuscripts etc.), identify hitherto unidentified manuscripts, and clarify the date and origin of the manuscripts studying their colophons.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009 年度	990,000	297,000	1,287,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,090,000	627,000	2,717,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：印度哲学・仏教学
キーワード：(1) 仏教学、(2) 写本学、(3)　梵文写本、(4)　国際研究者交流、(5) ドイツ　：インド：中国

１．研究開始当初の背景

アジア全域に浸透する仏教の思想・歴史を研究するためには、その底流にあるインド仏教の存在を決して無視することはできない。しかし、古典インド語であるサンスクリット語で記された原典資料、すなわち梵文写本は、インド本土においてはほぼ散逸している。我々が今日手にすることができるのはインド周辺諸国に伝来する梵文写本である。インド周辺諸国のなかでも、チベットに伝来する梵文写本は質・量ともに他の追随を許さない。

これらの資料は 1930 年代にインド人仏教学者ラーフラ・サーンクリティヤーヤナおよびイタリア人仏教学者ジュッゼッペ・ツッチが各々独立して調査し、そのいくつかを写真に収め、インド大乗仏教原典研究に計り知れない恩恵をもたらした。しかし 1960 年代以降になると中国・チベット間の政治情勢の激変に伴い、それら梵文写本は我々研究者の手の届かないものとなり、写本研究は停滞を余儀なくされた。

かかる状況下、現在、我々が使用しうるのは、上記の、1930 年代に撮影された梵文写本の写真版である。厳密には、ラーフラ撮影写真のポジティブコピーを蔵するゲッティンゲン州立兼大学図書館のコレクションのみが一般公開されている。

このゲッティンゲンコレクションは、バンドルスキーによる目録が 1994 年に発表されることによって、初めて全貌が明かされた。目下、我々は同目録を通じてのみ、チベット伝来の仏教梵文写本研究をなしうる。同目録は、しかし、写本研究の専門家によって編まれたものではないこともあり、いくつかの重大な不備を含む。本研究は、ゲッティンゲンコレクション所収の写真資料を網羅的に再検討し、同目録の不備(写本情報の誤解・誤記)を訂正し、また、目録刊行後に新たにもたらされた成果を補足することによって、仏典梵文写本研究のための基礎情報を更新し、情報の精度を高めることを目指す。

２．研究の目的

本研究の目指すところは、
(1)上記のゲッティンゲンコレクションの写本写真版目録における不備を訂正し、最新の研究成果をもとに情報を更新し、
(2)未比定写本の同定を行い、
(3)これまでに報告者が同定しえた写本を精読してテクストの校訂と訳注を発表し、
(4)チベット伝来梵文写本を所蔵する他のコレクションとの照合を行い、
(5)ゲッティンゲンコレクション所収写本の筆写地域・年代の分布の統計をとって写本の由来を明かすことである。

以上 5 点によって、コレクションを、細部と全体との双方向から網羅的に検証し、それによってチベット伝来仏典梵文写本の未解明な部分を詳らかにする。

３．研究の方法

上記目的(1)(2)を達成するために、目録（原文はドイツ語）の序文を全訳し、その訳注において誤記を訂正し、補足すべき情報を補う。またゲッティンゲン州立兼大学図書館を訪ね、そこに所蔵される、梵文写本のポジティブフィルムを調査し、目録情報の是非を検証し、同時に未比定写本を解読する。

上記目的(3)を達成するために、ゲッティンゲンに所蔵される当該資料を精読し、さらに他のコレクション(下記参照)に含まれる関連写本資料を集める。

上記目的(4)を達成するために、ゲッティンゲンコレクションと、およびローマの国立アジア・アフリカ研究所の所蔵する写本写真(ツッチコレクション)を対照し、相互のコレクションに共通する資料と、いずれか一方にのみ含まれる資料とについて照合をおこなう。

上記目的(5)を達成するためには、チベット伝来梵文写本の奥書を転写して並べた、ラーフラ・サーンクリティヤーヤナの手になる写本目録を参照し、筆記年代・地域に関する情報を網羅的に回収し、写本の由来について確認する。

４．研究成果

当該研究の成果は、上記 5 点の目的に応じた下記の 5 点に集約される。

(1) ゲッティンゲンコレクション目録における不備の訂正: 報告者は当該研究期間の初年度において同目録の序文和訳を刊行し(下記⑩論文「ゲッティンゲン所蔵の仏典梵文写本管見―『バンドルスキー目録』序文の和訳―」)、そこにおいて、同目録のもつ価値を現在の写本研究の視点から再評価した上で、目録における不備を指摘し、目録刊行後に行われた補充調査の成果を網羅

した。従来、ドイツ語で記された同目録は、その価値は認識されながらも、本邦では広く読まれることがなかった。本研究においてその和訳を刊行しえたことによって、当該研究分野の今後の発展の契機となることが期待される。

(2) 未比定写本の同定：ゲッティンゲンコレクションの整理番号 Cod.ms.sanscr. 259(写本原本)は従来「未比定」とされてきたが、苫米地等流氏(オーストリア科学アカデミー)によってアバヤーカラグプタ著『アームナーヤマンジャリー』の一断片と同定され、同氏の協力のもと、その解読成果を下記⑤論文(A Critical Edition and Translation of a Text Fragment from Abhayākaragupta's Āmnāyamañjarī: Göttingen, Cod.ms.sanscr. 259b)に報告した。

また、ローマのツッチコレクションに含まれる未比定写本群の中から4点の作品を同定し、その成果を下記⑨論文「ツッチ・コレクションにおいて新たに比定された梵文写本テクスト断片」および下記③論文(A Preliminary Report on Newly Identified Text Fragments in Śāradā Script from Zhwa lu Monastery in the Tucci Collection)に報告した。

(3) これまでに同定しえた写本の解読：ゲッティンゲンコレクション整理番号 Xc14/34 に含まれる、ヴァイローチャナラクシタが著した瑜伽行派の注釈書2点について、ツッチコレクションに収録される同一写本の別撮り写真と対照し、校訂テクストを作成し、下記論文④(Two Short Glosses on Yogācāra Texts by Vairocanarakṣita: *Viṃśikāṭīkāvivṛti* and **Dharmadharmatāvibhāgavivṛti*)に発表した。

また、ネパール伝来の仏典梵文写本に含まれる、シャーンタラクシタ著『タットヴァサングラハ』に対する著者不明の注釈の写本断片の解読成果を、張本健吾氏(ハンブルグ大学)の協力のもと、下記論文⑥(Fragments of a Commentary on the Tattvasaṅgraha, Part 1)に発表した。

(4) チベット伝来梵文写本を所蔵する他のコレクションとの照合：2009年9月9日に大谷大学において開催された日本印度学仏教学会の特別パネル部会「梵文写本研究の現状と課題」(パネルコンベナー・小谷信千代氏)において、「近年の仏典梵文写本研究の動向―チベットおよびネパール所蔵梵文写本を中心として―」と題した発表を行った。特にチベット伝来の梵文写本をめぐる世界各地の研究機関の近年の動向に焦点をあて、各機関の所蔵資料の既刊の目録類を紹介し、国際的な共同研究の現状と展望について詳細に論じた。その枠組みにおいてゲッティンゲンコレクションの位置づけと研究の現状を詳らかにし、特にローマのツッチコレクションとの対照研究の必要性を論じた。後者の改訂版目録は、2009 年 12 月にイタリア国立アジア・アフリカ研究所(IsIAO)から出版され、ゲッティンゲンコレクションとの対照研究がより容易となった。

(5) チベット伝来梵文写本の由来：ラーフラ・サーンクリトヤーヤナは、1930年代にチベットにおいておこなった梵文写本調査の成果を報告するなかで、写本の奥書の転写を提示している。本報告者は、この奥書情報を網羅し、筆写年代・地域が確定された梵文写本のリストを作成し、その成果を下記論文⑩に附論「『サーンクリトヤーヤナ目録』において年代確定された梵文写本のリスト」と題して発表した。筆写年代・地域が確定された写本は、ネパールで記されたものが多く、今回確認できた最古の筆写年代は998年である。また、東インドのパーラ朝期の写本や、カシュミールで筆写された写本(1054 年筆写が最古)も、奥書に年代を含む。一方、奥書を欠く写本の中には、字形によってそれよりも古いと推定されうる写本や、南インドのグランタ文字で記された写本、スリランカの写本などが存在する。このような写本の多様性は、当時の仏教徒の活発な往来を如実に物語り、チベット伝来梵文写本が、時代的・地域的にかなりの広がりをもっていることが知られる。これら梵文写本の由来およびチベット仏教世界における受容の歴史については、当該研究で得られた成果をもとに、チベット歴史資料の記述を加味しながら、より詳細な研究を計画している。

また、下記論文①「ゲンドゥンチュンペー著『世界知識行・黄金の平原』第一章和訳―1930 年代のチベットにおける梵文写本調査記録― (1)」においては、これまで十分に注目されてこなかった 1930 年代に行われた写本調査の実態について、チベット撰述の資料を中心に検討し、その成果を報告した。

近年は、中国の研究機関(蔵学研究中心、北京大学など)を中心に、国際共同研究のもと、チベット伝来梵文写本研究のプロジェクトが活発化し、チベット伝来梵文写本の持つ価値が改めて評価されつつある(2009年1月24日付『中外日報』および2010年4月11日付『高野山時報』に報告)。このように活発化しつつあるチベット伝来梵文写本研究をよりスムーズにに展開していくために、我々が先ずなすべき作業は、中国研究機関による写本関連資料の目録整理、チベット自治区のもつ写本原本の保存状況と目録整理、中国国外研究機関が所蔵する写本写真の目録整理

を、相互補完的に進行させせることである。本研究で為し得た、ゲッティンゲンコレクションの再整理は—無論、今後も常に最新の研究成果を反映させるために継続する必要はあるが—このような国際的な研究協力体制を可能にせしめる一歩につながるものであると自負する。

本研究機関に行った研究活動は下記のごとくである。まず 2008 年 6 月にアトランタにおいて開催された国際仏教学会でチベット仏教最初期の如来蔵思想に関する研究成果を口頭発表し、2008 年 7 月、カトマンドゥにて開催された初期タントラ研究・ワークショップに参加した。2008 年 8 月にはハンブルグ、ゲッティンゲン、ローマを訪ね、各機関の蔵する写本関連資料を調査した。2008 年 11 月には高野山大学において苫米地等流氏（オーストリリア科学アカデミー）を講師として招致し、中国蔵学研究中心とオーストリア科学アカデミーが共同研究としてすすめるチベット伝来写本研究の最近の動向と、『理趣経』梵文写本についての講演会を開催。2009 年 3 月にはゲッティンゲンおよびハンブルグを訪ね、写本写真版の補充調査を敢行。2009 年 7 月には大谷大学にて開催された印度学仏教学会特別パネル部会において、近年の仏典梵文写本研究の動向について報告し、2010 年 3 月にはゲッティンゲンおよびハンブルグにおいて写本写真版の第二次補充調査を行った。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

①加納和雄、「ゲンドゥンチュンペー著『世界知識行・黄金の平原』第一章和訳—1930 年代のチベットにおける梵文写本調査記録— (1)」、『密教文化研究所紀要』、査読有、Vol. 23、2010、pp. 63–103.

②加納和雄、「チョムデンリクレル著『大乗究竟論荘厳華』和訳および校訂テクスト（１）」、『高野山大学論叢』、査読有、Vol. 45、2010、pp. 13–55.

③加納和雄、A Preliminary Report on Newly Identified Text Fragments in Śāradā Script from Zhwa lu Monastery in the Tucci Collection、*Manuscripta Buddhica*, Vol. I: *Sanskrit Texts from Giuseppe Tucci's Collection, Part I.* Serie Orientale Roma. Roma: IsIAO、査読有、2008［発刊年 2009.12］、pp. 381-400.

④加納和雄、Two Short Glosses on Yogācāra Texts by Vairocanarakṣita: *Viṃśikāṭīkā-vivṛti* and **Dharmadharmatāvibhāgavivṛti*、*Manuscripta Buddhica*, Vol. I: *Sanskrit Texts from Giuseppe Tucci's Collection, Part I.* Serie Orientale Roma. Roma: IsIAO、査読有、2008［発刊年2009.12］、pp. 343-380.

⑤加納和雄・苫米地等流、A Critical Edition and Translation of a Text Fragment from Abhayākaragupta's Āmnāyamañjarī: Göttingen, Cod. ms. sanscr. 259b、*Tantric Studies*、査読有、Vol. 1、2009、pp. 22–44.

⑥加納和雄・張本健吾、Fragments of a Commentary on the Tattvasaṅgraha, Part 1、*Newsletter of the NGMCP*、査読有、Vol. 6、2009、pp. 15–24.

⑦加納和雄、rNgog blo ldan shes rab's Topical Outline of the Ratnagotravibhāga Discovered at Khara Khoto、*Contributions to Tibetan Literature*. Proceedings of the Eleventh Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Königswinter 2006. Beiträge zur Zentral asienforschung, Halle: IITBS. Ed. Almogi、査読有、2009、pp. 127–194.

⑧加納和雄、「ゴク・ロデンシェーラブ著『書簡・甘露の滴』—訳注篇—」、『密教文化研究所紀要』、査読有、Vol. 22、2009、pp. 121–178.

⑨加納和雄、「ツッチ・コレクションにおいて新たに比定された梵文写本テクスト断片」、『印度学仏教学研究』、査読有、Vol. 57-2、2009、pp. 157–163.

⑩加納和雄、「ゲッティンゲン所蔵の仏典梵文写本管見―『バンドルスキー目録』序文の和訳―」、『高野山大学論叢』、査読有、Vol. 44、2009、pp. 31–63.

〔学会発表〕（計4件）

①加納和雄、「近年の仏典梵文写本研究の動向―チベットおよびネパール所蔵梵文写本を中心として―」、日本印度学仏教学会、2009年9月9日、大谷大学.

②加納和雄、「サキャ南寺・三解脱門堂の歴史と曼荼羅壁画について」、密教研究会、2009年7月16日、高野山大学.

③加納和雄、「ツッチ・コレクションにおいて新たに比定された梵文写本テクスト断片」、日本印度学仏教学会、2008年9月5日、愛知学院大学.

④加納和雄、rṄog Blo ldan śes rab's position on the Buddha-nature doctrine and its impact on early bKa' gdams pa masters、International Association of Buddhist Studies、2008年6月24日、アトランタ(Emory University).

〔新聞紙面記事〕

①『中外日報』2009 年 1 月 24 日、第 8 面「『理趣経』新出梵本について」

②『高野山時報』2010 年 4 月 11 日、第 2-3 面「『理趣経』新出梵本の刊行によせて」

６．研究組織

(1)研究代表者

加納　和雄 (KANO KAZUO)

高野山大学・文学部・助教

研究者番号：00509523